

すくすくみどり

No.5 花大好き！



(財)札幌市公園緑化協会

はじめに

冬の長い北国では室内を彩る鉢花はかかせないものです。

しかし、私たちの住む北国・札幌では気候条件が本州と大きく異なるため、書店などによく出ている全国向けの園芸手引書では当てはまらないものも多くあります。

四季だけをとっても、遅い春、梅雨のないさわやかな初夏、涼しい夏、短い秋、長く寒い冬（室内の乾燥、しばれ、日照不足・・・）など、園芸にとって有利とも不利ともいえる「独特の条件」が、この北国・札幌では重要なポイントになっています。

また、家のつくり、ベランダや窓辺の向き、昼夜の温度、暖房器の種類や位置、加湿器の使用などのほか、これらと鉢花の位置関係など、私たちにとってはなんでもないことが、植物が生育するためには非常に重要な環境条件になってきます。

この小冊子は、北国・札幌を中心として「独特の条件」下で育てる主な室内の鉢花を取り上げ、これから園芸を楽しまれる方々に平易な手引書として活用していただくことを願って作製しました。

園芸を楽しまれる方がこの小冊子を有効に活用していただき、花と緑いっぱいの生活の一助としてくだされば幸いです。

なお、巻末にも触れていますが、この小冊子の作製に当たりましたは、皆様からいただいた募金（札幌市都市緑化基金）の果実（利子）の一部を使わせていただきました。

ここに、皆様への感謝と同時に、さらなる札幌市都市緑化基金積立へのご協力をお願いいたします。

もっと詳しい内容を知りたい、他の花や緑について知りたいという方は、巻末の「緑の相談」を是非ご利用ください。専門の相談員があなたのご質問にお答えします。

目次

北国の室内園芸の特徴

自宅の温度、湿度などを知ろう！	P 2
鉢花管理の基本	P 3～5
アザレア	P 6～7
アマリリス	P 8～9
カランコエ	P 10
ガーベラ	P 11
クジャクサボテン	P 12～13
クリスマスカクタス＝シャコバサボテン	P 14
グロキシニア	P 15
ワンシラン	P 16～17
シクラメン	P 18～19
シンビジウム	P 20～21
ゼラニウム	P 22
セントポーリア	P 23
ツバキ	P 24～25
ニューギニアインパチェンス	P 26
ハイビスカス	P 27
ファレノプシス(コチョウラン)	P 28
フクシア	P 29
ブーゲンビレア	P 30
プリムラ類	P 31～32
ペゴニア類	P 33～35
ポインセチア	P 36～37
マンリョウ・センリョウ	P 38
札幌市緑化植物園(緑の相談)	P 39～40
札幌市都市緑化基金	P 41

注：「生育のサイクル」については、天候や管理の状態などによって多少前後しますので、あくまでもひとつの目安として管理に一工夫凝らしてみてください。

また、水やり、施肥などの「何日に1回」などといった表現も同様に、目安ですのでご了承ください。

北国の室内園芸の特徴 自宅の温度、湿度などを知ろう！

北国の室内園芸の大きな特徴は、何といても長く寒い冬です。

また、この時期は次のように一歩室内に入ると暖房がきいて乾燥しすぎなどというのが、多くの家庭の特徴ではないでしょうか。

温度条件

温度 — 外気温（文字どおり、家の外の温度）
— 室内温度（特に冬は床と天井では10℃以上の差があることもあります!!）
— 鉢内温度（鉢にもよりますが、室内温度より普通3〜4度低く給水後はさらに低くなります）

鉢花や観葉植物の多くは熱帯、亜熱帯原産のもので、一定の温度を必要とします。北国では外気温が低いため暖房器によって室内の温度を保ちますが、暖房の点火・消火や戸の開閉などによって室内は温度変化が大きく、鉢花にとっての環境はよいとはいえません。

湿度条件

一般的に鉢花が置かれる居間などは暖かすぎ、逆に湿度は低すぎます。

鉢物の快適湿度は普通60〜70%ですが、この湿度を保つことは（特に冬は）非常に難しいものです。

湿度が低い場合、とにかく必要以上に水やりしがちですが、水やりと湿度を高めることは全く別のことで、湿度というのは空中湿度のことですので注意しましょう。

また、乾燥に弱い鉢物には霧吹きで葉水したり、蒸発皿を利用したり、夜にビニール、ポリフィルムなどで覆ってやったりします。このほか、一鉢だけではなく、数鉢をまとめて置き、お互いの湿度を高める方法もあり、自分の家庭にあった方法を工夫してみることも必要です。

日照条件

日照が弱いうえに、冬は曇天の日が特に多いことが北国・札幌の大きな特徴です。

鉢花の蕾を次々と咲かせるには、日当たりの良い所に置くのが基本ですが、それぞれの植物の性質によって光の強さや日照時間の長さなどが違ってきます。

しかし、冬期間はセントポーリアほか特別の種類を除き、ほとんどの鉢花は南側のガラス越しの窓辺に置いて日当たりが強すぎることではなく、むしろそれでも不足といっても過言ではありません。

こうしたことから、鉢花の生育には温度、湿度、日照といった環境条件をいかに整え、順応させていくかを考慮する必要があります。

鉢花の置き場所ひとつをとっても、室内のどこに置くかということは、室内の立体的活用のほか、その植物の特性と環境条件をよく知り、環境条件にあわせた配置を考慮することが大切なのです。

そのためにも、各家庭に最高最低温度計・湿度計などを設置し（私たちの体感温度・湿度は全くあてになりません!）、正確な温度（特に夜間の最低温度）を知って、どの種類がどの場所に置けるのかを知りましょう。

鉢花管理の基本

購入時はこんな鉢を選びましょう!!

- ・徒長した枝葉がなく、かたく生育している。
- ・葉や葉柄が短く、つまっている。
- ・葉や蕾が多い。
- ・病害虫におかされていない。
- ・葉の色やツヤがよい。
- ・花や葉に腐りがない。
- ・株全体のバランスがよい。
- ・花色が鮮明である。
- ・根が張っていて、株がふらついていないもの。

よい鉢花の条件



購入後、ほとんどの鉢は根が鉢いっぱいになまっていて、鉢花にとってとても窮屈な状態になっています。

こんな場合は、一回り大きな鉢に植え替えてやりましょう。

よい園芸店を選びましょう

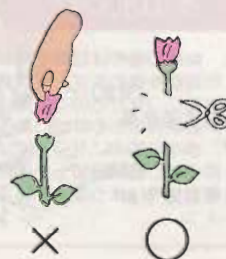
- ・園芸の相談によく応じてくれる。
- ・店内に光が十分に入っている。
- ・鉢物の手入れ、管理がよくなされている。

花の手入れ

花ガラ取り

次々と咲くものは、咲き終わった花ガラをこまめに摘み取りましょう。

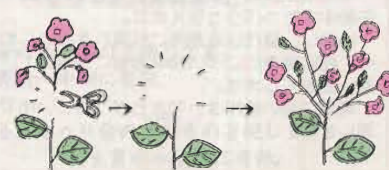
取るのは花びらだけでなく、種のかぶりから取ります。



切り戻し

花がひととおり咲き、茎が伸びてきたら、一度切り戻して肥料や水やりを続けると側枝が伸び、再び花をたくさんつけます。

思い切って早めに切ることも大切です。



水やり

鉢土はわずかしがなく、地植えと違って株全体が乾きやすくなっています。植物の性質と生育にあわせて適切な水やりをしましょう。

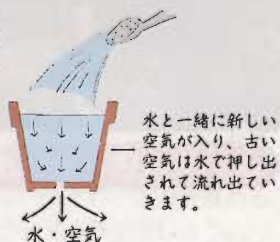


底水法



根に新しい空気を！！

水やりの目的は根に水分を与えることと根の呼吸を助けるために、新しい空気を送ってやることです。



底面灌水のプラスチック鉢

多くの植物は春から夏にかけて旺盛な生長をして体づくりをし、夏以降は生長がゆるやかになります。

生長期には頻繁に水やりをし、その後は、その植物が生きるために必要な水分を補給する程度でよいでしょう。

左の写真は最近よく出回っている鉢底から給水させるタイプの鉢です。

夏の水やり

多くは生長期で水を最も必要とする時期です。午前中にたっぷりと与えます。

しかし、鉢花は高温時に根腐れをおこしやすい、特に乾きのにぶい鉢は過湿に注意して、風通しをよくします。

高温に弱い植物は、できるだけ涼しい所で管理します。

冬の水やり

特に暖地、熱帯の植物は回数を減らし乾かし気味にして耐寒性を強めます。冬の過湿は確実に根腐れ、枯死につながるので注意しましょう。

冬咲き、早春咲きのものは乾いたらたっぷりと与えますが、必ず午前中に！！夕方では水分が抜けきらず、夜になり暖房を切った部屋などでは冷えて根を腐らせてしまうこともあるので絶対に避けましょう。

肥料

肥料の種類

〈有機質肥料〉

油粕や骨粉、鶏糞、米ぬかなどを主体としたもので水をやるたびに徐々に溶けて、長い間、肥料の効果が持続します（緩効性）。

〈無機質肥料〉

植物の生育に特に必要なチッ素、リン酸、カリほかの肥料成分を化学的に合成してつくられたものです。

水によく溶け、根にすぐ吸収される（速効性）タイプが一般的ですが、少しずつ溶け出す緩効性のものもあります。



●液肥（速効性）

株の周囲にムラなく与えます。不要分は流れてしまうので、濃すぎなければ安心です。（濃すぎると肥料負けします）



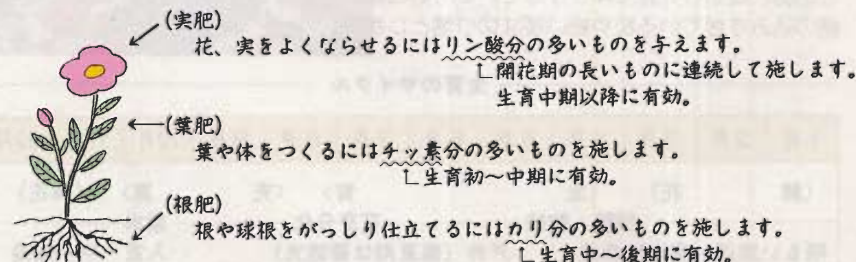
●置肥（緩効性）

文字どおり鉢縁に置くようにして与えます。



●元肥（緩効性）

生育期間の長いものは、植え替え時に用土に混ぜておきます。（根から離します）



アザレア

ツツジ科



置き場所

生育適温15~20℃。

暖房器の近くを避け、1日2~3時間以上はガラス越しの日の当たる所に置きます。また湿度が高い所がよいです。温度が高すぎると開花が早く、花の寿命も短くなるので部屋の下や窓際などのできるだけ涼しい所に置きます。

水やり

乾きやすいので、花がしおれないように鉢の表面が乾いてきたらたっぷりと、また開花中は少し多めにやります。霧吹きをする時は葉に十分かかるように与えますが、開いた花にかかると花持ちが悪くなるので注意が必要です。

肥料

夏の間(7月末くらいまで)、10日に1度の液肥と1か月に1度の置肥(油粕、骨粕)の併用を続ければ、9月末頃には枝先に花芽がびっしりつきます。

手入れ

花後は樹勢を保つため花ガラをこまめに摘みます。花弁だけを取るのではなく、その下の子房の部分から摘み取ります。

植え替え

1~2年に1回。花後はできるだけ低温で管理し新芽の伸長を抑え、遅くとも5月上旬までに植え替えます。新たに購入した株は鉢から抜き取り、根をほぐしながら古いピートモスや水ごけをきれいに切り除きます。根を1cmくらい切り詰め、新しい土で同じ大きさの鉢が一回り大きな鉢に植え替えます。この時、枝ぶりを見て伸びすぎている所などは、下葉を3~4枚残して切り詰め、内側の込みすぎている枝や細い枝は切り落とします。

生育のサイクル

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(開花)			〈生			育〉			〈充実〉 (開花)		
			植替・整枝			花芽分化			葉水		
明るい窓辺、夜やや低温				戸外 (盛夏期は要遮光)				入室・やや低温			

アザレアは土質が変わることを嫌い、弱酸性を好むので、それ迄の用土と同じような水はけと通気性のよい用土を使います。ピートモスを半分くらい入れたものなどがよいでしょう。

植え替え後は日当たりのよい窓辺に置き、4月末から5月上旬には鉢のまま戸外に出します。朝は直射日光に当たり、その後、半日陰になるような場所を選びます。

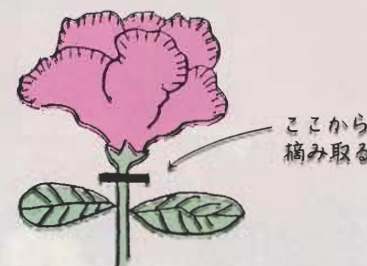
その後、10月の降霜前に室内に取り込み、できるだけ低温(10℃前後)で、急激な温度変化を避けます。

病虫害

花腐れ病や炭そ病などになることがあります。いずれも殺菌剤で防除します。

葉の緑色が抜けて、褐色になるのはハダニです。乾燥すると発生しやすいのでこまめな葉水などで予防をしますが、発生したら殺ダニ剤を葉の裏面によくかけます。

このほか、ツツジグンバイムシやアブラムシ、ベニモンアオリンガなども発生しますので園芸用の殺虫剤で防除します。



アザレアの花の摘み方

よい鉢の選び方

- ・あまり蕾の小さいものは避け、色づいた蕾のたくさんあるもの。
- ・花の模様や花色の良いもの。
- ・葉のツヤがよく、下葉が黄ばんでいたりしないもの。
- ・病気やアブラムシなどがついていないもの。
- ・幹や枝が堅くしっかりしたもの。
- ・寄せ植えしていないもの。

- ・購入後は、高温となる場所は避けて、半日くらいは湿度の高いビニールケースなどの中で保護するなど、徐々に室内の環境に慣らすようにしましょう。





置き場所

生育適温15~25℃ (20℃前後)。
強い光と温度があれば休眠しないで一年中生育可能です。しかし、10月頃から低温とともに乾燥させ凍らせないように (5~10℃) 越冬させて、翌春に植え付けた方がよいです。植え付け後の温度によって開花までの日数が変わり、25℃以上の高温になると開花までの日数は短縮しますが、花茎が長く、花が小さくなり、あまりよい花は咲きません。15~20℃で管理すると、花も大きく、花茎とのバランスもよく咲いて長持ちします。

植え付け後の温度	15℃	20℃	25℃
開花までの日数	45日	30日	15日

花が終わるまでは室内の明るい暖かい所 (20℃前後) に置きます。花茎が伸びてきたら、日光の方へ曲がるので、時々鉢を回してやりましょう。

6~10月 (降霜前) までは屋外に出して、よく日に当てます。

水やり

過湿を嫌うので水やりは控えめにします。球根を植え付けたときは4~5日くらいは水やりをしません。根の無い球根の場合は2~3週間やりません。

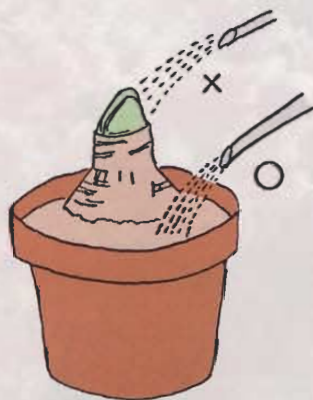
発芽してから開花までは1週間に1回くらいやります。

環境によって乾き具合が違いますので、鉢の土がよく乾いたらやるようにします。開花中は少し多めに十分与えます。花後はまた控えめにし、秋になったら完全に停止します。

球根の頭の部分に水がかかると腐りやすいので、かからないように静かに水やりします。また、鉢底から流れ出た水は絶対に受け皿にためないで捨てましょう。

肥料

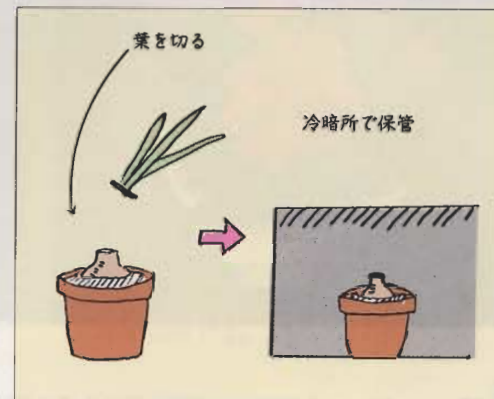
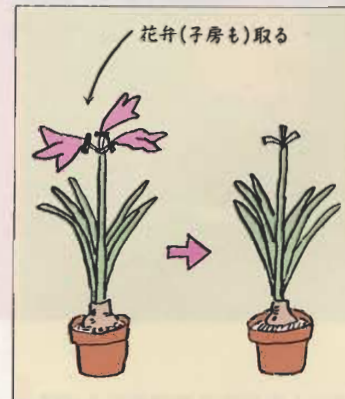
発芽してきたら置肥を1回、開花後には1カ月に1度、9月まで施用します。また、多肥を好むので肥料切れにならないように液肥も併



用します。開花中から9月まで10日に1度、1,000倍液を与えましょう。

手入れ

花後は花びらを取り、花茎は手で簡単に取れるまで残しておきます。9月頃から徐々に水やりを減らし、10月には完全にストップします。室内に取り込んだあとは葉を切り取り、鉢土のまま乾かして冷暗所 (5~10℃) に置きます。2~3カ月くらい休眠させて、1~4月に新しい土で植え替えます。

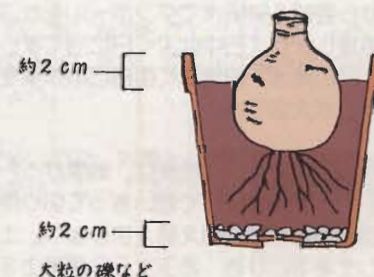


植え替え

2年に1回程度。土は培養土に火山礫や川砂などを加えた排水のよいものを使います。

鉢は大きすぎると乾きにくいので、球根の直径2倍くらいの鉢が適当 (6号鉢程度) です。プラスチック鉢の場合は過湿にならないように注意が必要です。

- 古い根や黒く変色した部分、病斑部分などは取り除きます。
- 植え付け前に殺菌剤で球根を消毒します。
- 図のように必ず球根の肩を土の上に出して浅く植えます。
- 植え付け後は1週間 (根の無いものは2~3週間) くらい水をやりません。
- 根を傷めないように細心の注意が必要です。



病虫害

赤斑病……球根や葉、茎などに赤褐色のシミのような病斑がでます。特に秋に発生しやすくなるので、殺菌剤を散布します。

しかし、球根が充実していればあまりこわい病気ではありません。

カラコエ

ベンケイソウ科



置き場所

開花株は10～20℃が適温。日当たりがよい室内かベランダで管理しましょう。花ガラを取り除くと再度花が咲くので、こまめに摘みましょう。熱帯性植物ですが、10℃くらいの方が花は長持ちします。

水やり

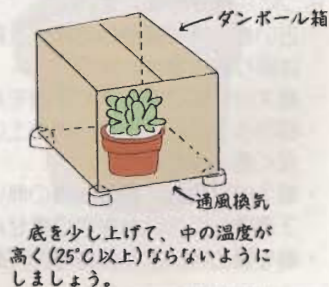
一般の花より乾燥に強く、水やりは控えめがよいでしょう。多湿は根腐れの原因となるので注意してください。

肥料 6月頃から花芽の見える頃まで半月に1度程度の液肥を与えます。

手入れ 夏の間はベランダで育て、よく日に当たるようにします。10月下旬頃に室内に入れます。日が短くならないと花芽をつけない短日植物なので、クリスマスの頃に花を楽しむためには、9月上旬から1ヵ月くらい夕方5時から翌朝8時頃までダンボールをかぶせて短日処理します（日中はよく日に当てましょう）。

この間は、根気よく毎日この作業を繰り返すことが大切です。

植え替え 花後は、地際から2～3節残して思いきって切り戻し、一回り大きな鉢に植え替えましょう。土は、ゴロ土を下にひき、赤玉土5、腐葉土3、川砂2の割合で混ぜてやるとよいでしょう。



カラコエの短日処理

生育のサイクル

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(開花) 植替 < 生育 > (短日処理)											
整枝～摘芯											

ガーベラ

キク科



置き場所

生育適温15～25℃。日当たりがよい室内かベランダでよいでしょう。

春から秋にかけて花持ちのよいシンブルな花を楽しむことができます。

冬の間も最低8℃以上保って日当たりのよい窓辺などで育てると年中花を楽しむことも可能です。

水やり

開花中はたっぷりと水をやり、冬の間は少し控えめにします。ただし、水はけが悪いと根腐れをおこすので注意が必要です。

肥料 置肥と液肥を併用するなど肥料切れに注意しましょう。

手入れ 根の張りが非常によく、生育も旺盛で丈夫ですが、根づまりで開花がストップしやすいので鉢替えが必要です。ただし、株を植える場合は深植えにならないように注意してください。

植え替え 株分け、植え替えは1年に1回、春（秋でも可）がよいでしょう。根の回り具合を見ながら、順次鉢上げします。切花用の場合は10号鉢、鉢植用の場合は8号鉢を止鉢とすればよいでしょう。

病虫害 オンシツコナジラミの発生が多いので、対策として成虫と卵を退治するために、園芸用の殺虫剤を混ぜて5～7日に1回、2～3回繰り返して葉の裏側まで噴霧してやりま。

生育のサイクル

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(開花)						花)					
明い窓辺			戸外・ベランダ			室内			(明い窓辺)		

クジャクサボテン

サボテン科



置き場所

6～10月中旬頃までの茎節伸長期、肥大期は鉢植えのまま戸外に置きます。戸外に出す時には、葉焼けを防ぐため1週間くらいは家の北側などに置き、徐々に慣らしながら西日の当たらない日当たりのよい所に移します。室内に置いている10月中旬～2月下旬の間は5～8℃くらいの低温で夜間照明のない所に置きます。3月頃からは10～20℃くらいの明るい所で管理します。

春から初夏にかけて色鮮やかな大輪の花が咲きます。

花の寿命は短いのですが、蕾の状態

から花が終わるまで長い期間楽しむことができます。茎はコンブに似て、多肉質で堅いことが特徴です。

水やり

花芽が出始めてから8月中旬頃までは鉢土の表面が乾いたら十分に与えます。8月下旬頃から徐々に水を控え、11月いっぱいまでは月に2～3回程度と控えめにします。

その後、2月末頃までは月に1～2回の葉水程度にします。

肥料

植え替えの時は、用土に緩効性肥料を元肥として施用します。植え替えてから8月頃までは固形油粕などの置肥を月1回程度施し、その後10月中旬までと花芽が出始めてから開花するまで、ごく薄い液肥を月2回程度の割合で施すとよいでしょう。

植え替え

2～3年に1回程度でよく、その場合は、花後直ちに行います。鉢はなるべく小さな素焼き鉢か駄温鉢を使い、深植えに注意して植え替えます。

古土は全部は落とさず、まわりだけ少し崩します。

生育のサイクル

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(開花) 茎節が伸長					肥大		短日で休眠				蕾大
花後・植替											
茶の間			戸外			室内(5～8℃)					10～20℃

古いゴボウ根は中途から、枯れている根は根元から切り取ります。また、老化した茎節や棒状の茎節も切り取ります。

植え替え後、3～5日間程度は水やりを控えます。

用土はあまり選ばせませんが、鉢花に適した材料を用いて排水・通気のよいように適当に混合して使います(例＝中・小粒赤玉土7、腐葉土3)。

砂漠性のサボテン用土は生育不良となることが多いので避けましょう。



ジャングルに育つサボテン

クジャクサボテンはメキシコ東部からブラジルにかけての熱帯林に生育しています。サボテンといっても、多くは木の幹や岩の割れ目に根を下ろす着生種です。茎節は稜が極端に少なく扁平です。薄暗く、湿度が高く、雨が多いジャングルに適応した生活をしています。ですから、柱サボテン、玉サボテンなど砂漠に育つサボテンとは違った栽培方法が必要です。

クジャクサボテンは園芸品種のクジャクサボテン類と原種クジャクサボテン類に分けられます。

クリスマスカクタス

サボテン科

(正式名は「シャコバサボテン」)



置き場所

5～9月頃まで、日当たりのよい戸外で管理します。その後は、日の当たる10～20℃くらいの暖かい室内で管理しますが、短日性の植物なので夜遅くまで部屋の電気をつけていると花芽がつかないことがあります(3～4週間の短日処理を行えば花芽は確実につてきます)。暖房器のそばは高温、乾燥で蕾が落ちてしまうので避けましょう。花後は涼しい所で管理します。

水やり

戸外に出した後は、鉢土の表面が乾いてきたらたっぷりと与えます。8月

以降は控えめにして、月3回程度でよいでしょう。その後も控えめにし、鉢土の表面が白く乾くまで待つと与え、受け皿に水は絶対にためてはいけません。

肥料

5～7月の間、置肥または液肥を与えます。開花中はもちろんのこと、8月に入ってからでは与えません。

手入れ

手入れ

5月頃に伸び過ぎた茎先を2～3節摘むと、新芽が多く出て株張りもよくなります。8月に入ってから伸びた新芽は、それまでに伸びた茎節を充実させるために摘み取ります。また、咲き終わった花も指先で摘み取ってやりましょう。

植え替え

2～3年に1回。3～4月頃がよいでしょう。クジャクサボテン同様、砂漠性のサボテン用土は避けた方がよいようです。

生育のサイクル

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
開花	(生 育)					休 眠			(開 花)		
整枝・植替				短日処理							
低温の所(5~8℃)				日当たりのよい戸外					明るい窓辺		

※最近は日長に依存しない交配種が多く出回っています。

これはダメッ!! せつかくの蕾が落ちちゃう…

- ① 鉢土の極端な乾燥
- ② 激しい温度変化
- ③ 日光不足
- ④ 暖房器のそばにおく
- ⑤ 過湿（根腐れの原因）

シャコバサボテンは環境の変化にとっても敏感なので、特にこれらのことには十分注意してください。

グロキシニア

イワタバコ科



置き場所

生育適温15～30℃。直射日光は葉焼けの原因にもなるので、レースのカーテン越しの窓辺などの明るい室内で管理し、特に扇風機の風などにはあてないようにします。また、湿度も保つように注意します。適温、適湿、一定の遮光に注意することが大切です。

水やり

葉上灌水は日焼けや病気の原因にもなるので、鉢の表面が少し乾いてきたら鉢の縁からたっぷりと与えます。秋に入って、花が咲き終わってきたら徐々に水やりを控えます。

肥料

多肥を好みます。
できればリン酸、カリの多いものがよいでしょう。

手入れ

手入れ

花後の花ガラは切除します。球根の貯蔵は、10℃以下になって葉が黄変し、地上部が枯れてきたら、室内の5℃以上の所で鉢のまま置いて管理します。翌年、3～4月頃に水やりを始め、25～30℃くらいに加温してやれば発芽を始めます。

なお、気温の低い時は、水温を20℃以上に暖めて水やりをします。気温の高い時も同じで、気温と水温の差が5℃以上あると低温障害をおこすおそれがあるので注意が必要です。

植え替え

植え替え 3～4月頃、生育状態をみて植え替えをします。
この場合、パーミキュライトやパーライトを混ぜた砂を用い、球根の直径2倍くらいの鉢に植えて軽く覆土します。適温を保てば1カ月くらいで芽が出てきます。

その後は、培養土（例＝腐葉土2、ピート3、土4、砂1）で鉢植えし、弱い光から始めて徐々に日に当てていきます。

また、ビニールなどで覆って湿度を高めるのもよいでしょう。

—生育のサイクル

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
植 替 (開 花) 球 根 貯 蔵											



置き場所

クンシランは強い光を嫌います。特に斑入りの品種は日焼けに弱いので気をつけます。10～5月までは室内の明るい所（レースのカーテン越しくらいの光）で管理します。6～9月は戸外の半日陰に置きます。10月頃から室内に取り込みますが、この時期5～10℃くらいの低温に約60日間あわせないと花が上手に咲きません。ですから、室内に取り込んだ後、玄関などの涼しい所に12月頃まで置くようにします。

水やり

過湿には弱いのでやりすぎは禁物です。他の鉢物も同様ですが、用土の種類、置き場所、鉢の大きさ、種類などによって乾き具合が異なるため、水やりの回数も変わってきます。よく観察して、土の表面が乾いていれば鉢底から流れ出るくらいたっぷりやってください。開花時はやや多めに、生育期の6～8月は乾きも早いので乾きすぎないように注意します。9月になり温度が下がってくるとやや控えめにします。

肥料

4～5月頃から月に1回、油粕と骨粉の固形肥料を9月まで与えます。開花しているものは花後から始めてください。戸外で管理する6～8月には、生育旺盛なのでチッ素分の少ない液体肥料も併用します。液肥は10日に1回くらいの割合で500～1,000倍に薄めたものを水やりの要領で与えます。

植え替え

2～3年に1度、開花後4月下旬～5月中旬頃が適期。植え替えの10日くらい前から水やりを控え、土を乾いた状態にしておきます。大きすぎる鉢は過湿になったり、花芽がでにくくなったりする原因にもなるので、根がやつと入るくらいの駄温鉢がよいでしょう。

花茎が伸びない理由は？

花茎が
のびないで
咲いてしまう

10～12月は
涼しい所で!!



クンシランの陽芸相談で最も多いのが、花の茎が伸びずに下の方で咲いてしまうというものです。このようになる最大の原因は温度管理にあります。前述のとおりクンシランは10月頃から10℃以下の低温に約60日間あわせないと花茎はうまく伸びません。ですから、室内に取り込み後、すぐに暖房のある暖かい部屋に入れていたものは花芽ができていても花茎が伸びず、葉の間で咲いてしまいます。ここで大切なことは、10月の室内取り込み後、玄関などの涼しい所に約60日間（12月頃まで）置いて管理することです。

植え替え、株分けの仕方

①鉢から株を抜きます。鉢の縁をたたいても抜けない場合は、鉢を割った方が根を傷めません。

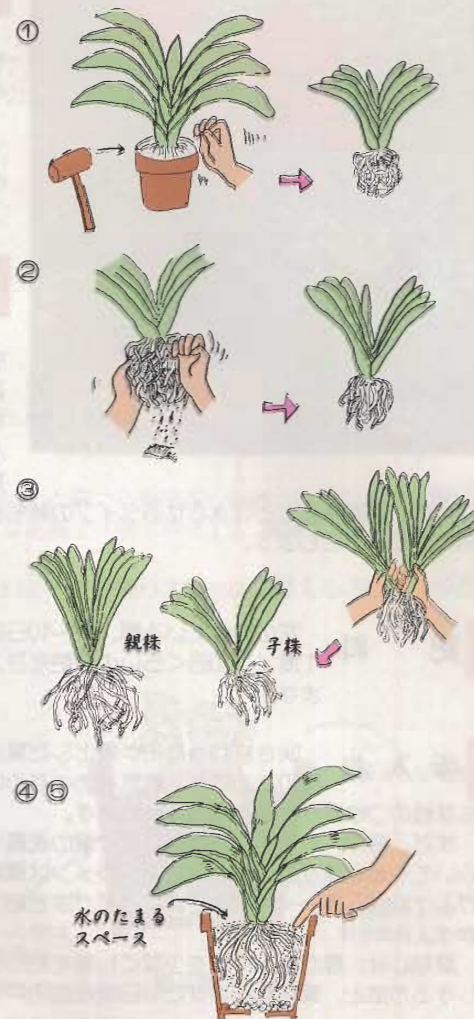
②根を傷つけないように手でたたきながら古い土を落とし、絡み合った根を丁寧にほぐします。この時、腐った根があれば取り除きます。

③株分けする場合は、この時に分けます。子株の葉が7枚以上あるものだけ分け、分けた子株に最低7～8本の根がつくようにします。

根元を手でしっかり分けるが、大株の場合はナイフなどで切り分けます。

④鉢の底にゴロ土をしき、用土（例＝赤玉土、火山礫、腐葉土の等量混合）を少し入れます。根を広げてかぶせるように入れ、根の間に指か細い棒で土を隙間なく入れます。この時、根を傷つけないように丁寧に扱います。

⑤出来上りはやや中高で、深植えにならないように注意します。水のたまるスペースを1～2cmくらいとるようにしましょう。



植え替え後の管理

根が傷んでいるようであれば、すぐには水をやらず、1週間後くらいから始めて根と土をなじませます。置き場所は日陰で、徐々に明るい所に慣らすようにします。肥料は3～4週間過ぎてから、キャラメル大の固形油粕を5号鉢で3～4個くらい、月に1回の割合で鉢土の上に置肥として与えるとよいでしょう。

シクラメン

サクラソウ科



置き場所

開花中は、日当たりのよい窓辺に置き、時々鉢の向きを変えて株全体に光が当たるようにします。

温度は日中15～20℃、夜間は10℃以下、3～4℃に下がっても平気です。寒さに気遣うあまり暖房器の近くに置くことは絶対に避けましょう。

水やり

乾燥は嫌いますが、水のやり過ぎは球根を腐らせるので禁物です。鉢土の表面が乾いてきたら、花、葉にかからないように株元へたっぷりと与えます。水温は室温と同じかやや低めくらいが理想的です。

また、最近は底から吸水させるタイプの鉢も多く、底の水入れに水がなくなったら補充するようにします。

肥料 花の咲いている間、7～10日に1度、1,000倍くらいの液肥を与えます。

手入れ 咲き終わった花や黄化した葉は、株のためにも、病気を防ぐためにも球根のつけ根から抜き取ってやります。

また、時々、水で濡らした布などで葉の表裏をふいてやると株が弱りません。シクラメンは環境がよければ、春3～4月頃まで次々と花が咲き続けます。

夏越しは、春から水やりを少なくし葉を枯らして完全に水を切り、球根だけで夏越しする方法と、葉を枯らさずに半日陰程度の戸外に5月下旬頃に出し、風通しのよい



正しい花と葉の摘み方

生育のサイクル

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
く 生						育					
明るい窓辺						植替					
戸 外 ・ 半 日 陰						(開 花)					
						室 内 ・ 明るい窓辺					

涼しい所で水を与えながら夏越しする方法がありますが、夏の涼しい北海道では、後者の方が向いているようです。

花がしおれてきた時は、鉢を新聞紙2枚程度にくるみ、霧を吹いて風呂のふたの上にのせておくで一晩で回復します。



株のリフレッシュ方法



くるんだら霧を吹いて、風呂のふたの上へ置きます。

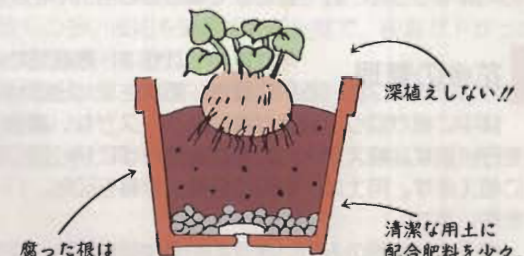
植え替え 8月中～下旬頃、古い土と腐った根は取り除き、一回り大きな鉢に替えてやります。用土は培養土（例＝赤玉土6、腐葉土4）で、配合化成肥料をひとつまみ混ぜます。

また、開花株購入直後、根を傷めないように一回り大きな鉢に替えるのも一つの方法です。

植え替えに際しては、絶対に深植えしないように注意してください。

肥料は開花株と同様に薄い液肥と置肥の併用がよいでしょう。

病虫害 チツ素過多、密植、通気不足、過湿を避け、灰色かび病などの予防を第一に、殺菌剤と殺虫剤を混用して月に1～2回程度散布します。



植え替え

よい鉢の選び方

- ・ 葉に光沢と厚みがあり、株全体がしっかりしていること。
- ・ 5～6輪の花が株の中心に揃って咲いており、サイズの異なった大小の蕾が沢山ついていること。
- ・ 葉の数に比例して花が咲くので、葉数の多いもの。
- ・ 花に奇形がなく、花弁の先端が大きく反転していること。
- ・ 球根の肩の部分が露出していること。



原種の自生地の環境は1,000~1,500m程の高地で、冬は時々霜が降りるくらい低温になり雨はほとんど降りませんが、夜露や朝霜が覆います。

春から秋までは雨期になり、5~7月に多く降り、十分水分を吸います。

夏の間の気温は、最高25℃、最低15℃くらいです。ですから、この点で北国では夏越しの適地といえます。しかし、冬の暖房による乾燥で、自生地が夜露、朝霜で覆うのと逆環境になること、春が遅く、秋が早いので栄養生長期が短いこと、この点を克服することが栽培の大きなポイントです。

開花中の管理

適温は10~20℃。これ以上の高温になると花が早く終わってしまうので、葉や蕾に霧吹きして乾燥を防ぎます(花には絶対かけない!)。日中は窓辺に置きガラス越しの日光を十分に当てます。

水やりは鉢土の表面が乾いたら、なるべく朝のうちにたっぷり与えます。

環境がよければ3ヵ月近く花を楽しむことができますが、翌年の開花を考慮し、株に負担をかけないように花は早めに切り、切り花として楽しめます。その方が株のためにはもちろん、鉢で最後まで咲かせるよりも花を長く楽しめることも多いようです。

花後の管理

花が終わった株は、最低15℃以上のガラス越しの光によく当たる所に置き、新芽を早く出させて生育をスタートします。

鉢中に根が回り、新芽が育つスペースがない場合(新規購入の多く)は、植え替えを行います。植え替えは、根鉢を崩さずに1~2回り程大きい黒か紺のプラスチック鉢に植えます。用土は、専用の培養土か軽石50%、パーク材50%程度を混ぜたものなどを使います。

株分けは大株のみ行います。小分けはせずナイフなどで大胆に2~3株に分けます。何年も花の咲いていないバルブが込んだ株も同様に行いますが、このような株に花をつけるまでのバルブを育てるには、早くても2年はかかります。いずれにしても、株分けによって根を傷めると、翌年は花をつけない場合があるので、むやみに株分けするのは禁物です。

新芽は早いもので10~11月、遅ければ翌年2月頃に、バルブの地際部分からいくつか出ますが、数が多いと栄養分が分散して満足に育たないので、一つのバルブに一つの新芽だけを残して、他はかき取ります。

4~7月の管理

この期間の新芽のバルブをいかに太らせるかが花芽をつけるポイントになります。

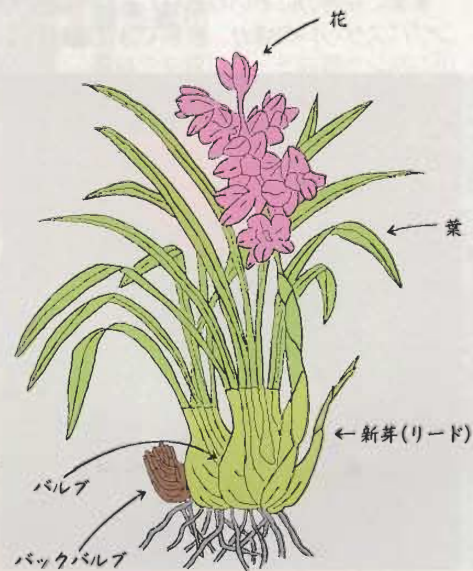
開花後から5月までは、できるだけ明るい窓辺に置き、6月に入ったら戸外に出します。午前中は直射日光を、午後からは木陰になるような所が最適です。

また、鉢と鉢の間をあけ、棚の上に置くなど風通しをよくします。

肥料は、4~7月まで置肥として毎月1回固形油粕と、洋ラン用の液肥を7~10日に1回、水やりがわりに与えます。

水は十分に与え、特に戸外に出す6~8月は晴天の日には朝夕2回必要です。

夕方に水やりする場合は、置き場所の周囲にも水をまきます(夜温を下げて、昼夜の温度差をつける程、株が充実します)。



8月~開花までの管理

夜温が下がったら室内に入れます。入室後は、夜温が25℃以上の高温にならないように注意します。

肥料は、この時期以降、リン酸分の多い液肥を時々与える程度で、夜温が下がったら中止します。チッ素分の過多は絶対に禁物です。

水やりも温度の下降とともに間隔をあけ、水切れさせない程度に鉢土の表面が乾いたら、できるだけ午前中に与えます。

8~10月には花芽が確認できます。蕾が見えてくるまでは、ガラス越しの日光に十分当ててやります。

病虫害

ハダニ~湿度があれば発生は少なく、高温乾燥状態でよく発生します。発生したら、殺ダニ剤を散布しますが、同じ薬剤を繰り返し散布すると効果が薄れるので、違ったものを交互に散布します。また、時々霧吹きを葉裏にかけると、ある程度抑えられます。

カイガラムシ~古歯ブラシなどで落とし、薬剤を散布します。バルブと葉の間についたものは、なかなか駆除しきれないので、ていねいに薬剤を散布します。

ウイルス~症状は新芽に白っぽいスジが入り、葉が古くなると黒いスジが入ります。ウイルスに侵された株は処分し、ハサミなどの用具は消毒して使いましょう。

ゼラニウム

フウロソウ科

茎葉に独特のにおいがあり、それを嫌う人もいますが、鉢物、プランター、ハンギングバスケットのほか、欧米では花壇材料として広く利用されています。



置き場所

生育適温15~25℃。日当たりと風通しのよい所を好み、冬は日当たりのよい窓辺に置き、5月頃からはベランダ、戸外に出します。10月に入ったら再び室内にとりこむと年中花を楽しむことができます。

水やり

比較的乾燥を好むので、室内では特に控えめにして、過湿に注意します。ですから、水は鉢土が白く乾いてきてからで十分です。

肥料

置肥と液肥を併用します。ゼラニウム類は多肥栽培が適当で、肥料切れは花つきを悪くします。

チッ素分よりも、リン酸、カリ成分が多く含まれている肥料が最適です。また、タバコの灰を月1~2回、5号鉢で小さじ1杯くらい与えるのもよいでしょう。

手入れ

古い株は生育、花つきともに悪くなるので、挿し木して株の更新も必要です。成葉3枚程度をつけた挿し穂を取って、十分に水揚げしてからさします。葉がしおれない程度に日よけをして、床土に水分を保てばよいでしょう。

植え替え

同じ鉢で半年も育てていると根づまりするので年2回。整枝も行います。用土はややアルカリ性を好むので、水はけのよい培養土に少量の石灰を混ぜて使うとよいでしょう。

生育のサイクル(周年開花)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(開花)			(開花)			(開花)			(開花)		
整枝・植替			整枝・植替			整枝・植替			整枝・植替		
日当たりのよい窓辺			ベランダ、戸外			室内			室内		

セントポーリア

イワタバコ科

置き場所

夏はやや涼しく、冬は暖かく常に70%程度の空中湿度とやさしい光を当てることが管理の基本です。

生育適温は15~25℃で、昼夜の温度差も少なく、20℃前後の適正温度であれば一つの花茎につく花数も多くなります。

明るい所を好みますが、直射日光は避けてレースのカーテン越しに置き、株全体に光が当たるように、時々鉢の向きをかえてやります。弱光は生理障害を起こしますが、暗い部屋では蛍光灯や植物用ライトなどで補うことも(1日12~14時間)できます。

太陽光線の目安 窓越しの太陽の光に手をかざし、影に指がクッキリ見える状態ではセントポーリアにとって強すぎます。

水やり

湿潤な環境を好みますが、鉢内の過湿を嫌うので、水の与えすぎは禁物です。鉢土が乾いてきたら(5~7日で乾くのがよい)、日差しの弱い朝カタ方に、25℃くらいのぬるま湯を株元へたっぷり与えます。水温が低いと根を傷める原因になり、冷たい水が葉にかかるとシミができるので注意が必要です。

肥料

四季を通じて次々と花を咲かせるためには、同じものを長期間与えず、数種類用意して交互に与えます。薄い液肥を水やりがわりにぬるま湯で与えます。育苗期にはチッ素成分の多いものを、開花株にはリン酸、カリ成分の多いものを与えます。

植え替え

少なくとも年2回。一般には春と秋に植え替えます。古い葉や傷んだ葉を取り除き、専用用土に緩効性肥料を元肥してやります。下葉が落ちて茎首が長くなった株は、鉢から抜き取り、茎が見えないように葉のつけ根まで新しい鉢に植え替えます。この時、下の根が鉢底につかえる場合は、根茎の下部を切り除いて植え込みます。

病害虫

防除には、環境を清潔に保ち、光と湿度に注意することが一番ですが、定期的に月に1回程度、殺虫剤と殺菌剤を混合して散布するとよいでしょう。

生育のサイクル

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(開花)	植替	(開花)	植替	(開花)	植替	(開花)	植替	(開花)	植替	(開花)	植替



置き場所

生育適温10～25℃。

夏の間は、日当たりのよい戸外に出しますが、急に直射日光に当てると日焼けをするので、徐々に慣らすようにします。冬の間は、暖房のそばなどの温度の高い所に置くと蕾が落ちたり、ひ弱になったりするので、明るい低温の所(5～10℃)に置くとよいでしょう。

水やり

乾いたらたっぷりと与え、その後は乾くまで与えません。水のやりすぎは根腐れなどの原因になるので、注意が必要です。冬は乾燥しやすいので、開花まで霧吹きなどで葉水をします。空中湿度は50%くらいに保つのが適当です。

肥料

生育期には、7月末くらいまで月1回の置き肥として油粕と骨粉の固形肥料と10日に1度の液肥を与えます。

生育のサイクル

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(開 花)				〈生		育〉	花芽分化		休		眠
植替・整枝				日 当 た り の よ い 戸 外				入室(寒い所)			
花後も温度の低い所											

手入れ

剪定は春。花後、新しい枝のでる前になるべく早くします。遅くなると、その後の花つきを悪くします。

普通は、ふところ枝、交差枝、徒長枝などの伸びすぎたり、こみあいすぎる枝を切る程度で、風通しをよくし、樹型を整えます。深く切りすぎると、かえって徒長枝をだし、花芽がつきにくくなったりするので注意しましょう。

花芽は春に伸びた新梢の先端部につきます。

また、花のつきすぎは樹勢を弱らせてしまうので、適当に蕾を落とします。

一般的には、小輪種で1枝に1個、大輪種は葉10枚につき1個程度の蕾を残して、あとは落してしまいます。



植え替え

植え替えを嫌うので、2～3年に1回程度。花後、新しい芽の出る前に行います。

用土は、水はけと保水性のよいものを混ぜて使います(例=赤玉土5、腐葉土3、火山礫2)。

根のきれいなものは根をほぐさずに、一回り大きな鉢に鉢替えします。

木を大きくしたくない場合は、根を傷つけないように注意しながら半分くらい根をほぐし、元の鉢に植え、枝も適度に切り詰めます。

深植えにならないように注意し、植え替え後にたっぷりと水をやり、その後は乾いたら水やりをします。肥料は、植え替え後1カ月くらいから施します。また、植え替え後1カ月くらいは強光線を避けます。

よい鉢の選び方

- ・品種名が正確についているもの。
- ・蕾が極端につきすぎていないもの。
- ・葉の緑が濃く、光沢のあるもの。
- ・若い枝が太く、充実した芽が多いもの。
- ・根がよく張っていて、がっしりしたもの。





置き場所

生育適温15~25℃。
冬も花を咲かせるためには10~15℃以上の温度が必要です。夏は、花を長持ちさせるために風通しのよい半日陰がよく、秋から冬までは、窓越しの光に十分当てるようにします。

水やり

過湿を嫌いますが、いったん根が鉢にまわり始めると多くの水分を欲しがります。
鉢土の表面が乾いてきたら、株元からたっぷりと与え、根腐れ防止のために受皿には水をためてはいけません。

また、切り戻し後、切り口に水がかかると腐れるおそれがあるので注意が必要です。

肥料 多肥を好み、薄い液肥を1週間に1回程度与えます。また、2カ月に1回程度、化成肥料を置き肥として与えるとより効果があります。
肥料が切れると花つきが悪くなり、下葉も落ちやすくなります。

手入れ 枯れた葉や咲き終わった花は、こまめに摘み取ります。
花が少なくなり、花つきが悪くなったら茎を半分くらいの高さの所で切り戻すと、また花をつけるようになります。

植え替え 周年開花させるためには年2回。春と秋が一般的です。
根の発育がよいので、それ以外でも一回り大きな鉢に植え替えると花つきがよくなります。

小さい鉢のままで、すぐ根づまりをおこすので注意しましょう。
用土は、通気性と水はけのよい土を混ぜ（例＝赤玉土5、腐葉土3、鹿沼土2）、緩効性の肥料を元肥として施します。

病虫害 清潔に保つことが予防の基本ですが、月に1回程度は殺菌剤を散布します。アブラムシ、ハダニの発生には早めの防除が必要ですが、殺ダニ剤は薬害がでやすいので、朝か夕方のできるだけ涼しい時に散布するのが比較的安全です。

生育のサイクル(周年開花)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(開花)			(開花)			(開花)			(開花)		
整枝・植替			整枝・植替			整枝・植替			整枝・植替		
日当たりのよい窓辺			ベランダ、戸外			入室後明るい窓辺					



置き場所

生育適温15~30℃。花つきの条件は高温と日光ですので、戸外の温度が15℃以上になってから戸外に出し、秋には早めに入室し、日当たりのよい暖かい窓辺に置きます。また、温度差がありすぎたり、日当たりが悪い所に鉢を移すと落蕾するので注意しましょう。

水やり

6~9月頃の生育期には水を切らないように、鉢の表面が乾いたらたっぷり与えます。夏は毎日水やりするくらいに、また時々、葉水もかけてやり

ます。秋から冬にかけては、最低温度が10℃を下回ると生育が止まり古い葉から落ち始めますが、枯れたわけではなく、春になれば新芽が伸びてきます。それまで、暖かく日当たりのよい窓辺に置き、10~14日間隔くらいに水やりを控え、乾かし気味にして冬を越させます。

肥料 生育期に肥料が切れると葉が黄ばみ、蕾も落ちることがあるので、月1回の置き肥（固形の油粕、骨粉など）と、リン酸、カリ分の多い液肥を1週間ごとに与えます。冬越しの間は、肥料を与えません。

手入れ ある程度花が咲き続けると、新梢だけが伸びて花がつかなくなるので、枝元から3~4節残して切り戻します。その後、新しく伸びた枝は温度、日光、肥料が十分であれば、新芽に花が付き始めます。

植え替え 通常毎年春先に行いますが、根鉢を傷めないように扱い、用土は水はけのよいもの（例＝赤玉土か培養土5~6、腐葉土3、火山礫1~2）を用いて、植え替え後に水をたっぷり与えます。

生育のサイクル

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
休眠			剪定(開			花)			休眠		
暖かく日当たりのよい窓辺			植替			戸外			日当たりのよい窓辺		

※ハイビスカスは環境さえよければ、年中花を咲かすことができます。しかし、そのためには、半日以上十分な日光と適度な温度、肥料が必須条件です。

ファレノプシス

(コチョウラン)



置き場所

生育適温は昼間25～28℃、夜間18～20℃が理想です。

夏は戸外がよいのですが、弱光線を好むので、日中の強い光、特に西日は避け60～70%遮光し風通しのよい所に置きます。

また、直接雨に当てると病気が発生しやすいので注意します。秋は夜間最低温度が15℃以下になる前に室内に移します。

冬はレースのカーテン越しの明るい窓辺に置き、暖房からの温風が直接あたらないように注意します。

水やり

60～70%程度の空中湿度を好みますが、鉢

の中の過湿を嫌うので、灌水過多に注意します。

夏は水ゴケが乾いたらたっぷり与え、冬は控えめにします。また、冬は乾燥に注意をして、こまめに霧吹きをしたり、加湿器などで空中湿度を上げてやります。

肥料

最低温度が18℃以上あれば、常時7～10日に1回程度、薄い液肥を水やりがわりに与えます。

植え替え

一般に成株は2年に1度。しかし、高温多湿で栽培するので水ゴケが傷みがちになり、この場合、水ゴケは少なくとも1年に1度は取り替えます。時期は十分な温度と湿度があればいつでもよく、一般的には花後、新葉が伸び始める頃、4～5月頃が適期です。

素焼き鉢の底にガラを多く入れ、通気と水はけをよくします。

用土は水ゴケまたは洋ランの培養土を用い、株がぐらつかない程度のかたさで植え込みます。

生育のサイクル

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(開	花)	植	替	〈生	育〉	花	芽	分	花		

年に2回花が咲く……!?

- ・花茎を下から3節程残して切ると、残った節から再び新芽が伸びて2カ月くらいで花を咲かせます。ただし、①葉が4枚以上ある②花茎がある程度太い③水ゴケが新鮮であるといったことなどが必須条件です。
- ・最後の花が咲き終わるまで花を咲かせておくよりも、下の花が傷みかけた頃に切り取り、切り花として楽しんだ方が株のためにはよいでしょう。
- ・毎年2回、花を咲かせると弱るので、隔年にしましょう。花を咲かせない場合は、花茎の元から切ります。

ラン科

フクシア

アカバナ科



置き場所

生育適温18～20℃。戸外では越冬できませんが、5℃前後でも生育します。ただし、急激な温度変化を極端に嫌い落葉するので、戸外から室内に入れる時は注意が必要です。

1日10～12時間程度の日照があれば花芽をつける長日植物で、夏はベランダなどの日当たりのよい窓辺で管理しましょう。

夏の強い暑さに弱く、その意味で北海道の気候は栽培に適しています。

水やり

気温、室温にもよりますが、春先の植え替

え後は1～2日に1回、真夏期には1日に1～2回、秋から冬にかけては3日前後に1回、いずれも鉢の表面が乾いてきたらたっぷりと与えます。

肥料

多肥を好むので、肥料切れにならないように油粕、骨粉の置肥と7～10日に1回の液肥を水やりがわりに施します。

手入れ

育苗中は摘芯を繰り返し枝数を増やします。また、1度咲いた枝の節には再び花は咲かないので、伸びすぎた枝は下から3節程度残して切り戻し、新枝をたくさん出させます。

秋には、枝を1/2から1/3程度切り戻して室内に入れ、5℃くらいの低温乾燥気味に保ち、株を休眠させます。暖かい茶の間では早くから花をつけますが、中途半端に生育させると株が軟弱に伸びよい花をつけないことがあるので注意が必要です。

挿し木も容易にでき、用土はバーミキュライト、20℃が保てればいつでもよいですが4月頃がよいでしょう。

植え替え

年に1度、春先に行います。鉢は一回りずつ順次鉢上げします。用土は特に選びませんが、排水がよく有機質に富んだもの(例＝赤玉土か培養土3、腐葉土2、火山礫1)に、緩効性の肥料を混ぜてやるとよいでしょう。

生育のサイクル

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
休				眠			(開		花)		
日当たりのよい窓辺						挿木・植替 ベランダ、戸外					

ブーゲンビレア

オシロイバナ科



置き場所

生育適温20～25℃。最低気温10℃にも耐え、冬越しできる限界温度は5℃くらいです。

年間を通じてできるだけ日当たりのよい所がよく、夏は戸外で管理し、降霜前の10月上旬には室内に取り入れます。また、環境の変化に弱く、落花しやすくなるので注意が必要です。

冬は最低室温10～13℃で日光が十分当たると開花を続けさせることも可能ですが、夜間暖房を止めたり、日当たりの悪い室内では水を控え休眠させます。

葉先が枯れてきたら枯死を防ぐ程度の水を与え、新芽が伸び始めるまで待ちます。

水やり

乾燥にも耐え、過湿を嫌うので大雨や長雨には直接あてないようにし、鉢土の表面が乾いたらたっぷりと与えます。水やりの量と枝の伸長が花つきを左右するので、花後は水を少なめに枝の伸長を抑えるようにします。

肥料

開花中は2週間に1度、リン酸、カリ分の多い液肥を与えます。花後は置肥と液肥を併用し肥培します。

植え替え

小さめの鉢で育てた方が枝も伸びすぎず、花つきもよいのですが、生育が旺盛で根の回りが早く根づまりしやすいので、追肥しても葉の色が変わらず葉が小さくなる場合は植え替えします。

一般的に、適期は毎年花後の5～6月頃で、整枝後に根土を1/2～1/3くずして新しい用土（例＝赤玉土が培養土5～6、腐葉土3、火山礫1～2）で植え替えます。

ちょっぴり欲張って……気分は南米??

ブーゲンビレアは原産地南米ブラジルなどでは四季咲きですが、一般には春に開花します。しかし、鉢を乾かし強制休眠させることによって夏や秋（冬は日当たりが弱いので難しい）にも開花させることができます。

花後、枝が伸び始めたら、枝を1/2～1/3切り戻し、夏は15日間、春秋は30日間水やりを中止し、日当たりのよい所に置きます。新梢の先がしおれ、下葉が黄変して一部落葉し始めたら水を与えます。葉は徐々に生氣を取り戻し、切り戻した枝から伸び出した新梢と、未開花枝の先端に花が見られるようになります。

また、短日植物なので1カ月程の短日処理によって花数を増やすことができます。茎葉の生長が旺盛でなかなか花の咲かない株も、休眠させることで花を咲かすことができます。

プリムラ類

サクラソウ科

プリムラは開花期間が長く、花の種類も多く、比較的寒さに強い性質を持っています。

置き場所

高温に弱く、昼間の温度は20℃以下、夜は5～10℃の低温で管理すれば低温の方が長持ちします。



ポリアンサ

ジュリアン

（ポリアンサ・ジュリアン）プリムラの代表種で、生育適温15～18℃。ポリアンサは中大輪、ジュリアンは小型小輪で、どちらも赤、ピンク、白、黄、青、紫などのほか、複輪になっているものもあり、とてもきれいです。特に、ジュリアンは小型で可愛らしく、冬から早春の花として人気があります。

水やり

水切れすると葉や茎がすぐ萎れ、花もちが悪くなります。水は鉢土の乾き具合をみて、鉢元へたっぷり与えますが、受皿に水をためると、すぐ根が傷みます。また花や葉にかけると病気などの原因となるので要注意です。

肥料

ごく薄い液肥を7～10日に1度与えます。徒長は禁物なので、

チッ素を少なめに、リン酸、カリ分の多めのものを与えます。

手入れ

花ガラ、黄ばんだ葉などは早めに摘み、常に根際を清潔に保ちます。

生育のサイクル（ポリアンサ・ジュリアン）

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
(開				花)				く		生		育)		(開花)	
明るい窓辺(20℃以下)					植替・株分け							明るい窓辺(20℃以下)			
					戸外、涼しい半日陰										

植え替え

毎年9月頃に植え替え、株分けをします。このほか、花鉢購入直後またはいくら水を与えても萎れやすい鉢(根腐れになっていない株)は根鉢を崩さず、一回り大きい鉢に鉢替えします。

また、生育がよい場合は開花中1~2か月で鉢替えすると長持ちします。

花の盛りが過ぎた鉢は、根の活力が衰えると再生が難しくなるため、早めに鉢替えします。

また、購入直後の鉢は、根がぎつちりつまっていることが多いので、一回り大きな鉢に植え替えてやりましょう。

病害虫

灰色かび病、うどんこ病が発生することがあります。その予防として株のまわりを清潔に保ち、根腐れや根づまりなどの生理障害を起こさないようにします。害虫はアブラムシ、ダニなどで、早期発見、早期防除に努めましょう。



(マラコイアス) 花色は赤、紅、桃、白が中心で黄、青はありません。清楚な小型の花をたくさんつけ、比較的花期も長く咲き続けます。2~5℃の低温にも耐えますが、露地での越冬はできません。暑さにも弱く、株分けも難しいため、通常は1~2年草として扱われています。



(オブコニカ) 花色は中間色のプリスタルカラーが多く、花期は一般に冬から春で間断なく咲き続け、プリムラのなかでは最も花期が長く、比較的弱光下でも耐えられますが、日光にはよく当ててやりましょう。また、耐寒性もあまりなく、茎葉の腺毛にプリミンという毒素を持っていて、体質によっては腺毛に触れると赤くかぶれることがあります。花の終わった株は6月上旬庭に植え、9月上旬頃まで育てます。手で簡単に株分けできるので、腐葉土を多めに鉢に植え、室内に入れます。

生育のサイクル(オブコニカ)

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
(開				花)				<生			
育>				株分け・鉢上げ				戸外			
入室・窓辺の明るい所				戸外、庭植えなど							

ベゴニア類

シュウカイドウ科

エラチオールベゴニア(リーガースベゴニア)



置き場所

生育適温は日中22℃、夜間18℃くらいが最適です(25℃以上、10℃以下では開花は進みません)。

夏は強い直射日光を嫌いますが、冬は日当たりのよい窓辺に置きます。置き場所を変えると花や蕾が落ちやすく、特に光線不足、温度変化には注意が必要です。

新芽が5~7cm伸びると日長8時間の短日処理を2週間ほど続けると約30~40日で蕾が見え始めます。その後に伸びる新芽には、処理をしなくても花芽はつきます。

水やり

ベゴニアは根が細かく、過湿や水切れに弱いので、鉢土の表面が乾いたらたっぷりと与えます。また葉に水がかかると傷みやすいので注意が必要です。

肥

料 多肥を好むのでリン酸分の多い液肥を7~10日ごとに与えます。

手入れ

花ガラや傷んだ葉は病気の原因になるので、こまめに摘んでやります。

植え替え

3~4月には花も少なくなり、次の開花のために植え替えます。植え替えは根鉢を崩さずに一回り大きな鉢に、茎葉は1/3程度を切り戻します。株が古くなると花つきや全体の形も悪くなるので、葉挿しで新しい株をつくりましょう。

生育のサイクル

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
(開				花)				<生			
育>				植替							
窓辺の日の当たる場所				切り戻し				半日陰~レースのカーテン越し			



冬咲きベゴニア

別名: クリスマスベゴニア

草丈は20~30cm、細めの茎に丸型の小型で白からピンクの濃淡が中心で、極めて多花性です。管理はエラチオールベゴニアとほぼ同様です。

球根ペゴニア



ペゴニアのなかで最も豪華で美しい花が咲きます。

置き場所

生育適温15～20℃、暖かい窓辺が最適です。通気性と排水がよければ、夏に花壇植えしてもよく育ち、9月に鉢上げして日当たりのよい場所に移すと咲き続けます。

しかし、10℃以下になり、日長11時間以下では球根が肥大化し、生育開花が止まるので、鉢のまま5～6℃の所で越冬させます。

水やり

鉢土の表面が乾いたらたっぷりと与えます。

肥料 ペゴニアの中で1番欲しがります。置肥と1週間ごとくらいに薄い液肥を併用します。

生育のサイクル

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
休眠	鉢植え込み				(開	花)			球根貯蔵・休眠		
									入室		



センパフローレンス

別名：四季咲きペゴニア

生育適温10℃～25℃で、30℃以上では開花しません。

ペゴニアのなかでは最も明るい場所を好むもののひとつで、春から夏は花壇で、秋末からは鉢上げして日当たりのよい室内に取り入れ、冬はガラス越しの光線に当ててやります。

花後はこまめに花ガラを摘み、病気の発生を予防しましょう。

水やりは鉢土の表面が乾いたら、たっぷりと与えます。

肥料は7～10日に1度、薄い液肥を与えます。生育中はいつでも植え替えできます。

木立性ペゴニア



置き場所

生育適温15～25℃。夏は戸外の半日陰に出すか、室内では日当たりのよい窓辺のレースのカーテン越しの光線に当てます。

春から秋まで大きな花房を下げて咲き続けます。

冬は10℃あれば越冬しますが、それ以下なら水を控えて休眠させます。また、5℃以下では枯れてしまうので注意しましょう。

水やり

過湿に注意し、鉢土の表面が乾いたらたっぷりと与えます。休眠中は乾燥気味に管理します。

冬に休眠させない場合は、湿度を高める工夫が必要です。

肥料 薄めの液肥を1週間ごとに与えます。

植え替え

花後1年に1回植え替えます。茎を切り戻して仕立て直します。古い株は株元から、新梢は下から2～3節ほど芽の見えところで切ります。整枝後、根鉢を半分くらい崩し、植え替えして新芽の発生を促します。古株になると花つきが悪くなるので、挿し木して株の更新をはかりましょう。

生育のサイクル(夏咲き種)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
休眠	休眠	(開	植	替	・	切り戻し	花)	休眠			
		(日当たりのよい窓辺)			明るい窓辺、戸外		(日当たりのよい窓辺)				



観葉ペゴニア

別名：根茎性ペゴニア

生育適温15～25℃、冬でも12℃は必要です。多湿を好み、空中湿度は高い方がよく、低いと葉縁から枯れて見苦しいので時々葉水してやるのも効果的です。またセントポーリア程度の遮光と風に当たらないことが大切です。生育状態を見て、株分け、植え替え鉢替えなどを行うようにします。水と肥料は欲しがります。

ポインセチア

トウダイグサ科



メキシコ原産で、欧米では「クリスマスフラワー」の愛称で親しまれ、日本でも代表的なクリスマスの花として愛好されています。

ポインセチアの赤い部分（最近では白や斑入りのものもでています）は花ではなく、花を包む苞と呼ばれるもので、本当の花は真ん中に小さく集まっています。

置き場所

寒さに弱く、生育適温は20～25℃、夜間も10～12℃以上に保ちます。しかし、暖房器のそばは逆に株が弱まるので注意しましょう。

また、日当たりを好むので暖かい窓辺に置き、ガラス越しの日光に十分当ててやります。

5月下旬～6月頃になって霜の心配がなくなったら、戸外の日当たりのよい所に置き、肥料も十分与えます。

9月頃早めに入室し、1ヵ月ほど苞が色づくまでダンボールなどをかぶせて、日長9時間程度の短日処理を行います。

水やり

水切れに弱いので、鉢土の表面が乾いたらたっぷりと気温より高めの温水を与えます。また、湿度を高める工夫もしてやりましょう。しおれやすいので、あまり乾かしすぎないようにしましょう。

肥料

年中、液肥（リン酸、カリ分を多め）7～10日に1度。また、5～9月の生育期間中は固形肥料の置き肥を1ヵ月に1回程度与え、液肥と併用します。

生育のサイクル

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
剪定			育			花芽分化			(開花)		
明るい窓辺			植替			短日処理			外		
戸			外			日当たりのよい明るい窓辺					

植え替え

花後4月頃が適期です。開花枝を2～3節残し、切り戻して、根鉢を1/3ほど崩して植え替えてやります。

用土は赤玉土に腐葉土、ピートモスを2割ほど加えた培養土でよいでしょう。植え替え後は、日当たりのよい所に置いてやります。

9月頃、下葉が黄変し、落ちてきたら、根づまりの状態ですので、もう一回り大きな鉢に根鉢を崩さないようにして植え替えてやりましょう。



手入れ

傷んだ葉は切り取り、カイガラムシやオンシツコナジラミなどの害虫に注意し駆除します。

挿し木の要領

7cmくらいに伸びた新梢を切り、乳液を洗い流して、発根剤をつけて挿します。

発根後に鉢上げして8月中旬迄に葉を5～6枚残し、摘芯して枝を増やします。



ポインセチアと矮化剤

矮化剤というのは草丈の伸長を抑える薬剤で、アザレアなどをはじめ市販のポインセチアも茎が伸びすぎないように矮化剤で処理され、草姿がコンパクトになるようにしています。しかし、矮化剤を使用せず温室で管理するとかなりの大株になります。ですから一般家庭でも矮化剤などは使用せず、大株にして育ててみてはどうでしょうか。

マンリョウ・センリョウ

マンリョウ ヤブコウジ科
センリョウ センリョウ科

置き場所

両者とも日陰を好むので、直射日光の当たらない明るい所で管理します。

夏期は戸外で管理できますが、直射日光には絶対に当たらないように注意します。

水やり

鉢土の表面が乾いたらたっぷり与えます。日陰に置くものですから乾きは遅いので、やりすぎないように注意します。乾きすぎも禁物です。

肥料

4～5月に固形油粕などの有機肥料を、7～9月に2回くらい果実の充実のために化成肥料などで追肥してやります。

また、植え替え時に、土に緩効性化成肥料などを施すとよいでしょう。

手入れ

マンリョウは3月下旬には実を取ります。

また、腰高になるので、6月上～中旬に取り木して仕立て直します。

センリョウは枝があはれる（非常に込み合う）ので間引き、剪定をします。土から出た新芽は2年目の冬に実をつけますが、性質上鉢植えのままで長くつくることは難しいようです。

植え替え

5月中旬以降に赤玉土と腐葉土を等量に混合した用土などで植え替えます。



(マンリョウ)

高さ1m程の常緑低木、実の大きさは約5～6mmで、普通は赤ですが、黄熟するキミノマンリョウ、白熟するシロミノマンリョウもあります。



(センリョウ)

高さ80cm程の常緑低木、枝先に赤い実をつけます。

センリョウは、枝があはれるので鉢植えよりも、切り花としての利用が多いようです。

＝札幌市緑化植物園＝

緑あふれる街づくりを…

四季を通してアドバイスします。

■豊平公園緑のセンター

豊平区豊平5条13丁目

●開館時間

午前8時45分から午後5時15分まで

●休館日

毎週月曜日（月曜日が休日の場合はその翌日）

12月29日から翌年の1月3日まで

■緑の相談

●相談日・時間

休館日を除く毎日

午前10時から午後4時まで

■緑の図書・ビデオ

●午前8時45分から午後5時15分まで

電話 (011)811-9370



電話によるご相談は

豊平公園
緑のセンターへ

☎(011)811-9370

■百合が原緑のセンター

北区篠路町太平210番地外

●開館時間

午前8時45分から午後5時15分まで

●休館日

毎週月曜日（月曜日が休日の場合はその翌日）

12月29日から翌年の1月3日まで

■緑の相談

●相談日・時間

毎週水、木、土、日曜日

午前10時から午後4時まで

■緑の図書

●午前8時45分から午後5時15分まで

＜温室観覧料＞

●大人（高校生以上）……………120円

●小人（小・中学生）……………60円

●65歳以上・幼児……………無料

※敬老手帳などをご提示ください。

電話 (011)772-3511



花づくり、庭づくりのお手伝いを…

■平岡樹芸センター
豊平区平岡4条3丁目45番地

- 開園期間
4月29日から11月3日まで
- 開園時間
午前8時45分から午後5時15分まで
- 休園日
毎週月曜日（月曜日が休日の場合はその翌日）
11月4日から翌年の4月28日まで

緑の相談

- 相談日・時間
毎週水、木、土、日曜日
午前10時から午後4時まで
※庭木など実物見本に即した相談が受けられます。

緑の図書・ビデオ

- 午前8時45分から午後5時15分まで
電話 (011)883-2891



■麻生緑の相談室
北区北39条西5丁目（麻生総合センター内）

緑の相談

- 相談日・時間
毎週火、水、金、土曜日（祝日に重なる場合は、木曜日が代替相談日です）
午前10時から午後4時まで

緑の図書

- 午前9時30分から午後5時15分まで
電話 (011)757-1000



札幌市データバンク

不要となった庭木、草花（球根、宿根草）を登録してください。欲しい方にあっせんします。
＜申込方式＞
○提供者は所定の申込書に記入してお申し込みください。（郵送でも可）
○受け取り希望者は、提供リストが緑のセンターに掲示されますので、ご来館のうえお申し込みください。
受付期間：緑のセンター休館日以外
受付時間：午前9時～午後4時
＜申し込み・問い合わせ先＞
〒062 札幌市豊平区豊平5条13丁目 豊平公園内
札幌市緑化植物園緑のセンター
☎ 811-6568
※対象樹木、草花類の提供は無償です。

＝札幌市都市緑化基金＝

財団法人 札幌市公園緑化協会の役割

当協会は、「札幌市都市緑化基金」を積み立てし、これを有効に運用して民有地の緑化を積極的に進めるために設立されました。

緑は、都市の良好な環境を作るうえで重要な役割を果たすと同時に、私たちの生活にうるおいとやすらぎを与えてくれます。

私たちは「緑あふれるまちづくり」を進めるため、この「都市緑化基金」の充実に鋭意努力しております。

この使命達成のため是非皆様方のご協力とご支援を心からお願い申し上げます。

都市緑化基金の募金にご協力を！

広げよう緑の輪……緑でつつもう 札幌のまち

緑化基金は、このような事業に役立てています。

民有地緑化の事業

- ・春と秋の記念樹の無料配付を行っています。
- ・町内会や自治会などにフラワーポットを無料で貸し出しています。
- ・ツタによる壁面の緑化を助成しています。 etc.

緑化普及・啓発活動

- ・緑化に関する展示会などの開催や後援を行っています。
- ・百合が原公園でゆりまつりを開催しています。
- ・「緑の絵」「緑の標語」コンクールを開催しています。 etc.

（この刊行物も基金の果実の一部で作成しています。）



GREEN CITY SAPPORO

基金に関するお問い合わせは

札幌市環境局緑化推進部自然保護課

〒060 札幌市中央区南1条東1丁目 大通バスセンタービル1号館
TEL 211-2532

財団法人札幌市公園緑化協会

〒060 札幌市中央区南1条東2丁目 オフィス1.2ビル
TEL 211-2579